

研究課題（テーマ）	子どもが育児困難傾向のある親に向ける視線の解析 —アイトラッカーを用いた子ども虐待予防システムの構築に向けて—		
研究者	所属学科等	職	氏 名
代表者	看護学科	准教授	寺井 孝弘
研究結果の概要			
近年の子ども虐待対応件数が増加している現状を踏まえ、子どもの視線や注視時間等の情報と、子ども虐待リスクが高い親を把握するための尺度から、支援が必要な親子をスクリーニングするシステムの構築に向けて研究を行った。 当初使用予定であったアイトラッカー（Tobii Pro Glasses 3）の購入が困難になり、Pupil Invisible（Pupil Labs GmbH）を用いて、予備調査を行った。予備調査の対象も想定より年齢が高かったこともあり、幼い子どもが親に向ける視線（注視時間）を想定しきることが困難であった。 しかし、情報システム工学科の研究者や視線解析を専門とする研究者から、装置の固定や実験環境の整備（光の環境を統一する等）について、より正確なデータ取得が可能となる示唆を得た。			
今後の展開			
幼い子どもが安定して装着でき、正確な視線解析が行える装置、実験環境の整備（光の環境を統一する等）について、検討を重ねていき、より正確なデータ解析が行える研究環境を整えていく。			